

令和5年度 大野南地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和5年11月21日（火）午後6時から午後7時37分まで
- 2 場 所 南区合同庁舎3階 講堂
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、加藤南区長、藤井環境経済局長、
大田まちづくり推進部長、仙波南区副区長、
榎本市民局長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 4人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	相模大野駅周辺の現況と今後の魅力あるまちづくりについて
概要	<p>相模大野駅周辺は、市の南の玄関口として位置付けられ「風格のあるまちづくり」をキーワードに、商業施設や文化・教育施設など多様な機能を集積した中心市街地として発展してきた。</p> <p>しかし、伊勢丹相模原店の閉店に加え、コロナウイルス感染症拡大の影響により、相模大野駅周辺のまちの閉そく感には著しいものがある。</p> <p>これまで、まちづくり懇談会において「相模大野の商業地づくりあるいはまちづくりをやっていく中で三核構造は維持する。」と市長より伺っているが、「南の玄関口」という市の位置づけを強固にするような市の具体的な施策は示されていない。</p> <p>相模大野周辺は、高層マンション等の建設が続いていることから、今後も人口が増加すると予測されている地域であり、これからますます発展することが期待されるまちだと考えている。</p> <p>市は、道路整備や駐車場対策、企業誘致は当然のことながら、ウォークアブルなまちや各種規制緩和の推進など、相模原市の「南の玄関口」として発展するためにとるべき対策について、都市基盤整備や経済対策などの具体的なビジョンと、令和5・6年に実施する施策・計画について市長自らの言葉で示していただき、その中で地域として一緒にどのようなまちづくりができるかを、具体的に考えるための懇談を行いたい。</p>
地区の取組状況等	<p>令和元年9月30日に伊勢丹相模原店の閉店以降、まちづくり会議開催時は、原則として毎回「相模大野駅周辺の今後のまちづくりのあり方」を議題として、引き続き関係機関等と協議を行っている。</p>
市の取組状況等	<p>伊勢丹相模原店の閉店がまちに与える影響は大きく、地域の皆様からは、跡地の建築計画とともに、周辺の公共施設の活用についてもご意見等をいただいております。令和2年2月4日には、事業主である野村不動産に要望書を提出するなど、市長を先頭に、公共歩廊の設置などを同社に求めてきた。</p> <p>その結果、24時間通行可能な公共歩廊や広場、商業・地域貢献施設が配置される計画が進んでいる。</p> <p>加えて、事業者との連携による相模大野中央公園、市営相模大野立体駐車場といった周辺公共施設の活用や、季節の橋の階段設置工事も進めており、既に信号機が歩車分離化された相模大野交差点と合わせ、より安全な歩行者動線の確保と</p>

	<p>ともに、回遊性の向上につながるものと考えている。</p> <p>一方で、相模大野駅周辺全体のまちづくりについて、「南の玄関口」として、さらに魅力のあるまちとするため、本市は「世代を超えて住む人・来る人に愛される持続可能なまちづくり」を進めている。そして、それを目指す姿として、これまでのハード整備中心の三核構造のまちづくりから、多様な都市機能や既存ストックの活用を検討し、地域の皆様との連携による、にぎわい創出に向けた取組を進めることで、さらなるまちの発展に取り組んでいく。</p> <p>この目指す姿を踏まえ、令和3年度からワークショップを実施しており、地域関係者の皆様が、相模大野のまちについて考え、まちを盛り上げるプログラムをつくり、11月19日に実施に結び付けることができた。</p> <p>このような取組みを通じて新たなまちづくりに関する機運等を図るもので、今後はこの結果を踏まえながら地域の皆様とさらに連携し、まちづくりを進めていきたいと考えている。</p> <p>また、商業振興の分野では、商業地形成の取組や商店街団体が実施する環境整備、にぎわい創出への補助金の交付など、地域経済の活性化に向けた施策を実施しており、相模大野駅周辺においては、「もんじえ祭り」や「ハロウィンフェスティバル」等のイベントで活用していただいている。引き続き、これらを継続していくほか、地域の皆様のご意向や社会情勢等を踏まえた対策を検討していく。</p> <p>地域の皆様からご要望をいただいている、伊勢丹跡地の周辺公共施設の活用による回遊性の向上について検討するとともに、今後、人流等への効果、地域資源や公共的空間の活用及び計画的な施設のリニューアルといった視点での検討を想定しており、地域の皆様による取組の進捗やまちの動向等に応じて進めてまいります。</p> <p style="text-align: right;">(奈良副市長)</p>
--	---

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>自治会活動での取組について、自治会では、季節ごとに盆踊りや花火大会、運動会などのスポーツイベント、餅つきなど、子ども会や老人会とも連携して親睦を図り、地域が活性化する事業や助成を地道に行っている。</p> <p>また、防災訓練や避難所運営訓練などを通して、災害時に必要な行動を隣近所で確認し合ったり、交通安全教室を開催したりするなど安全で安心して暮らせる地域づくりや、地区社会福祉協議会や地域包括支援センターとも連携して、高齢化が進む中での助け合いを行うなど、日頃から顔の見える距離で生活しているからこそその交流を図っている。</p> <p>最近では、ホームページの開設など、デジタルを自治会活動に取り入れ、企業や若い世代との交流に取り組む自治会も増えてきた。</p> <p>大野南地区は、交通の便が良く、災害リスクも小さいという特色があり、フラットに近い地形は、住宅等の建築に適した土地であると不動産関係者からも聞くように、暫くは人口増加傾向に推移すると予想され、少子高齢化も同様に進んでいくと思っている。</p> <p>逆に、マンション建設や大規模な宅地開発により、一度に多数の転入者があつた際に自治会への加入勧誘が難しく、自治会離れや地域活動の希薄化につながることを懸念している。コロナウイルスが蔓延し、活動が難しくなった時も、参加</p>

	<p>人数や時間を制限するなど工夫して活動を続けたり、感染症に関する情報の発信や、高齢者などの孤立を防ぐ工夫を行い日常生活に疲弊しないような努力を続けてきた。</p> <p>これまでに長い時間をかけて培ってきたつながりは、この地域が元気で魅力あるまちであり続ける支えになると信じ、これからも地道に続けていく。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>保健・福祉・医療分野での取組について、地区社会福祉協議会直営の3つのサロンや、自治会などが開催しているサロンは、高齢者や障がい者、子育て中で社会との交流が難しくなっている方など、閉じこもって孤立しがちな方たちが、地域でいきいきと元気に暮らせるよう、気軽に出かけて仲間づくりや健康づくりを行うことができる場所を目指して定期的開催し、ボランティアや民生委員・児童委員が中心となって運営している。</p> <p>各サロンは同時に、高齢者や障がい者への虐待やいじめにも早期に気付き、相談を受け、医療機関や市社会福祉協議会、地域包括支援センターなどの関係機関へつなぐ役割も担っている。医療機関は、公民館事業やふるさとまつりの際に、血圧測定や骨密度測定など、健康の大切さを考えるきっかけづくりを行っている。</p> <p>高齢者の仲間づくりについては老人クラブもあるが、「高齢化」や「老人クラブ」という名称を嫌がる高齢者が増え、運営や継続が難しくなっている。外出が困難で、サロンや老人クラブへの参加が難しい方などには、民生委員・児童委員が定期的に訪問したり、80歳になられた高齢者に、ご長寿と健康をお祝いする品を届けつつ近況を伺ったりしている。</p> <p>子どもたちへは、小学校と連携して登下校時の見守りを日頃から行っている。</p> <p>他にも、多くの委員が更生保護女性会に参加したり、市への各種手続きに必要な書類作成の手伝いを行うなど、民生委員・児童委員の役割はますます多岐にわたっているが、活動が認知されず3年の任期満了後の後任が見つからないなどの問題が深刻化しているため、大野南地区の民生委員・児童委員協議会は今年度、活動を広く知らせるために広報紙の発行を始めた。</p> <p>このほか、地区社会福祉協議会では、各サロンや民生委員・児童委員協議会との活動連携のほか、広く福祉活動を知っていただくため、福祉講演や映画会などの開催や、さりげない見守り活動として「ほほえみネット」の輪を広げる活動を行っている。しかし、見守り活動などは認知度が低いのが現状であり、さらに推進していく必要がある。チラシは掲示板だけではなく、地域のコンビニエンスストアや商店街の店頭にも貼り付け、多くの人が自然と見られるようにした。地域の異変に気付いた人が次の行動に移す手助けができ、助けられた人の役に立ち達成感を得られる、winwinな関係を広めていきたい。</p> <p>どの団体・機関も、地域の皆様が健康で、安全で安心して暮らすために、見守り支える活動を行っている。地道な活動が多いので、認知されにくいのが、この地域が魅力あるまちであるために、健康と安心を支えていく。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>産業・経済分野での取組について、商店会では、地域経済の活性化やまち全体が元気になるようなイベントを、たくさん企画している。「もんじえ祭り」、「ハロウィンフェスティバル」、「アートクラフト市」を継続して開催したことで、「相模大野のイベント」として認知度を高められ、地域を元気にすることが</p>

	<p>できていると思う。</p> <p>コロナ禍で、外出自粛などまちの活気が失われた中でも、自粛が明けたらすぐに再開できるよう調整してきた。今年、久しぶりにイベントを再開した際には、ノウハウの継承がうまくできていない、意欲の減退などから人材の確保などに大変苦労したが、まずは「復活」することを目標に実施することができた。</p> <p>結果として、8月に実施した音楽と食をテーマにした「もんじぇ祭り」は、2日間で10万人を集めるイベントに成長した。</p> <p>10月29日に開催された「ハロウィンフェスティバル」は、伊勢丹相模原店の開店当初から30年以上続いているイベントで、コロナの間も縮小して開催してきたが、子どもたちの、笑顔いっぱいの思い出作りに一役買っていると思う。</p> <p>11月5日に開催された、「アートクラフト秋の市2023」では、300店を超える出店があり、出店数は全国規模を誇っている。他にも、大野銀座のみんなの文化祭や女子大通りの「カレーフェスティバル」、「ポーノの夏祭り」、北口の「イルミネーション」、南新町の「鶴の恩返し」など、年間を通して、にぎわいを創出し、相模大野の魅力づくりに寄与できている。「もんじぇ祭り」や「ハロウィンフェスティバル」には、地区自治会連合会から協賛いただいたり、相模女子大学の学園祭や日頃の学生向けランチの提供で商店街のキッチンカーなどを出店させていただいたり、地域でのつながりも増えてきている。12月には「ゴスペルライブ」もある。伊勢丹閉店以降、コロナ禍もあり、元気を失っていた相模大野のまちに人々が集い、来てよかった、住んでよかったと思ってもらえるようなまちのイメージづくりが、経済の発展にもつながると考えている。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>文化・教育分野での取組について、教育機関はイベント実施などにぎわいづくりを目的とした機関ではないが、まちでどのような方が活動し、支えているのかを知るきっかけや、学びの機会を作って人材を育てていく役割があると考えている。</p> <p>相模女子大学は2025（令和7）年に創立125周年を迎えるが、今後のあるべき姿として、地域と共にある開かれた学園を目指している。商店街など商業者の方とも連携して、地域の活性化を進めていきたい。学園祭では日本全国の方とも関わりがあるが、第1に相模原市、特に大野南地区との関わりを大事に考えている。地域の皆さんに楽しんでいただける工夫をすることにより、学生の家族のほかにも多くの皆様にお越しいただいた。</p> <p>他にも、地域の商店街の協力によりキッチンカーにも昼時に学内に来ていただいている。ほかにも、地域の飲食店の10数店舗にて、学生に1食ずつ無料で食べてもらう企画も行う予定である。学生がまちや地域の飲食店の良いところを知ること、学生が通学時に素通りするのではなく、まちの中に立ち寄りにぎわいをつくる機会を作っていけるよう努力している。</p> <p>本学の大学院である、男女共学の社会企業研究科では、経営学の手法による社会課題の解決をテーマに、社会起業家の養成を行っている。今年9月にはPBL課題解決型学習の授業の一環で、市長も参加し、相模原市の課題に関する4つのテーマに対して、大学院生が4つのグループから提案しており、1月に発表を行う予定である。こうしたことを広めていくことで、相模原市、大野南地区の社会的課題を解決できるような道筋を作っていきたい。ほかにも市民の皆様の学び</p>

	<p>の場となるよう、リスキリング・リカレント教育を本学で提案できないか検討したい。生涯学習として、社会人や引退された方々への学習意欲を満たしていこうというような活動を進めている。</p> <p>公民館では、地域に寄り添った様々な事業を展開し、人々の繋がりをつくり出し協働の意識を育てられるよう、地域で共に心地よく生活するためのヒントとなるような活動を実施している。</p>
<p>市の発言</p>	<p>先に奈良副市長からお話しした取組状況について、各所管からもう少し詳しくお話しさせていただく。まちづくりに関しては、伊勢丹相模原店跡地の建築工事は、令和7年11月に完了し、令和8年1月末に、公共歩廊の通行開始も含めた「まちびらき」となる予定である。</p> <p>伊勢丹跡地の周辺公共施設の活用として、相模大野中央公園については、トイレや水景施設の改修、ベンチの増設を予定しており、野村不動産がコーヒーチェーンと連携したカフェの設置を予定している。</p> <p>相模大野立体駐車場では、計画地との間でのキッチンカー等の往来を可能にし、新たな公共的空間となる広場に、にぎわいを創出するための改修工事を、同社が予定している。</p> <p>今年5月より、季節の橋への階段設置工事を進めており、本年度中に工事を完了し、令和6年度からの供用開始を見込んでいる。（大田まちづくり推進部長）</p>
<p>市の発言</p>	<p>商業振興の視点からご説明させていただく。</p> <p>1点目が、市内の商業振興を図ることを目的として、商店街の環境整備や、まちのにぎわいづくりの取組などに対して、補助金を交付した。また、商店街の活性化を図るためのアドバイザーを派遣している。</p> <p>具体的には、相模大野駅周辺においては、街路灯の維持管理や、駐車場利用券の共同購入などの環境整備、「もんじえ祭り」などの多くのイベントの実施などに活用されているところである。</p> <p>駅前のパブリックインフォメーションでは、市政情報や地域のイベント情報を放映するなど、地域のにぎわいの創出に向けた取組を実施している。</p> <p>2点目として、イベントでまちを盛り上げるという視点では、11月19日に「ニューオーノキックオフ」として、コリドー街でオーノまちなか運動会を開催して、114名の方にご参加いただいた。同日夕方からは、相模女子大学のガーデンホールをお借りして、JAXAの方を講師とした宇宙の話や、天体望遠鏡を用いた天体観測、宇宙食の試食などを行った。これをきっかけに、今後新たなイベントについては南区役所と調整しながら進めてまいりたい。</p> <p>コロナ禍で、大きな影響を受けた商店街を支援するため、集客イベント等への支援を行う「がんばる商店街等応援補助金」を実施しており、相模大野周辺の商店街の皆様には、「ガラポン抽選会」や「スタンプラリー」の実施に活用いただいている。商店街をはじめ、市内での事業喚起や消費者支援を図るという視点から、サンキューキャッシュバックキャンペーンなど、スマートフォン決済を活用したポイント還元事業などを行ってきた。今後も商店街の皆様をはじめ、多くの方のご意見を聞きながら、必要な取組を進めていきたい。（藤井環境経済局長）</p>
<p>市の発言</p>	<p>南区役所では、相模大野駅周辺のさらなる活性化やにぎわいの創出を目的として、ワークショップを開催している。令和3年度から実施した第1ステップで</p>

	<p>は、まちづくり会議会長をはじめ、商店街やPTA、大学、鉄道会社、大型商業施設などの地域の関係者や事業者の皆様にご参加いただいた。まち歩きなどを通じて、自分たちが一番大切にしたいことを見つけて、市民自らがまちを変えていくための宣言として、シビックプライドアクションプランをまとめた。現在は令和5年1月から令和6年1月まで第2ステップが行われている。</p> <p>第1ステップからの継続参加や、公募にて参加している方により、市民自らが主体となってまちを盛り上げるための企画の実践を行い、にぎわいのあるまちづくりに向けた機運醸成や担い手の発掘、育成に取り組んでいる。</p> <p>来年度はこれまでの取組を踏まえながら、地域の様々な団体、事業者等の皆様と、にぎわい創出に向けた課題の共有、その解決策について検討していきたい。</p> <p>その他に、にぎわいづくりとして皆様楽しんでいただいているステーションピアノを、12月13日から13日間、30分延長した形で今年も開催するので、ぜひお越しいただきたい。 (加藤南区長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>今年は「もんじえ祭り」、「ハロウィンフェスティバル」、「アートクラフト」など通常の形で開催でき非常にうれしく思う。各商店街でのイベントを継続するには、マンパワーや人材の面も色々と考える必要がある。地域の皆様との連携が大事であり、今後は商店街以外の大型店との連携を重要視している。</p> <p>15年位前に行っていた相模大野のシティセールス事業では、色々成功失敗があった。相模大野をジャズの町にする取組や、相模大野の飲食店に行くとポイントがもらえる「大野カード」を作成したが、最終的には継続できなかった。現在は、相模大野を紹介するマップや小冊子を作っている。</p> <p>商店街の中で一番の課題が、懇親会ができる場所が相模大野にないことであり、まちづくり会議でも話している。コロナ禍が明けて、本格的に地域の活動が再開する中で、年明けには新年会や賀詞交換会が、5・6月には各団体の総会があるが、最近では隣町のホテルに出向くことが慣習化してしまっている。市や商店街、自治会の皆様と解決に向けて取り組むべき課題である。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>11月1日に相模原市と神奈川県、JR東海の3者で連携協力協定を結び、緑区橋本を中心に地域の活性化につながるまちづくりをスタートし、その中で企業誘致、起業支援、スタートアップ企業の創出・育成など様々な取組を行うと承知している。相模大野でも同じような事業を始められないかと考えており、相模女子大学では地域に開かれたキャンパスの実現として、2026（令和8）年度を目途に新たな施設の整備を計画している。その施設の機能・内容として、市内のインキュベーション企業との連携による、地域の活性化に向けた起業家人材の育成や、産学連携の促進を目指す、南区のイノベーション拠点の整備の検討を進めている。整備については内容主体であり、建物は二次的なものという考え方で、相模原市、特に南区と協働して行っていきたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>自治会について、大野南地区はかなり都市化し、隣近所の住民同士がよく分からないという方が多く、自治会加入者が少なくなっている。</p> <p>地域の活性化を図るにあたり、自治会に加入してもらうことが重要なので、その基盤整備として、他自治体のように自治会加入促進の条例を制定するなど、安心して住めるまちとなるための地盤を固めるような取組をお願いしたい。</p>

	<p>今後の災害対策について、費用のかかるものはずぐには進まないが、ソフト面での災害対策はすぐにできると思う。大野南地区では災害時要援護者避難支援に係る協定を結んでいる地区は2地区のみである。それ以外は、各自治会で一生懸命やっているが、一人暮らしの高齢者は動きづらく、そういう方々をどのように見守っていくか考えており、自分から声を上げられるような方向で取り組みたい。高齢者にはサロンに来る人だけでなく、家に籠っていて様子を把握できない人もたくさんいる。本人の同意があれば、自治会の中で共有できる旨を話すとお願ひしたいという方が多かった。小さい取組ではあるが、安心できるようなまちづくりに取り組んでいるので応援をお願ひしたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>自治会の加入率の低下は長年の課題であり、手を打たなければいけない。特に低いのは、分譲マンションである。地区連とマンション管理組合との情報連携をベースにして協力体制を構築し、加入促進に結びつけたいと考えている。</p> <p>相模原市には約4万9,000戸の分譲マンションがあり、そのうちの約2万4,000戸が南区に所在し、相模大野駅周辺に集中している。これは、通勤に適している現れでもある。分譲マンションが増えて住民が大幅に増加しているが、分譲マンションの自治会加入率は低いままで推移している。</p> <p>分譲マンションに絞って、地区連と管理組合の情報連携の協力体制を構築できれば、加入促進だけではなく、マンション住民のニーズや意見も管理組合を経由して、まちづくりに反映させることも可能ではないかと考えている。非常に多様化した住民のニーズにどう応えていくかが課題であり、自治会だけでなく、まちづくり自体にとっても非常に重要である。今回の取組は、管理組合との情報連携という新しい切り口であるが、試行錯誤してうまくいくように持っていきたい。</p> <p>最後に重要な点として、自治会活動は常に市との協働が前提だと考えている。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>魅力あるまちづくりについて、相模大野は、コロナ禍で若干の盛り下がりもあったが、商業地区として、地価も高まっている。今後の魅力としては、南区の窓口として市内外の来訪者に対して、ホスピタリティの高さをアピールできるまちを目指せるとよいのではないかと考えている。様々な困りごとが人手不足や担い手不足が要因であり、人が増えないと解消できないものである。</p> <p>ホスピタリティが高いというのは、歓迎されていると感じるまちである。例えば伊勢丹通り（県道51号線の旧伊勢丹相模原店付近）は渋滞が多く、抜けるのに時間がかかる。季節の橋から歩道が下りるのは、歩行者としてはとても良いが、道路が現状のままだと、車の渋滞が緩和されない心配がある。まちづくりは単独ではできないので、各所と連携しながら進めていく必要がある。PTAで開催するイベントを通じて、自分だけでなく、みんなで遊ぶことの楽しさも伝えていきたい。子どもと親と一緒に参加したり、外から来た方々もストレスなく過ごせたりすると、大野南地区への人口流入も増やせると思う。相模大野は楽しいと思われれば、担い手も増えていくと考えている。道路の拡幅や大きなイベントなどに関しては、市の力添えもいただきたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>子育て世代の受け入れはとても大切であるが、今の子どもたちが学んでいる学校施設の現状について伝えたい。生徒数が増え、中学生の体も大きくなっていくので教室が狭いことや、教室数が足りていないと感じる。</p>

	<p>中学校は各教室にエアコンが設置されているが、特別教室や移動教室には設置されていない。扇風機だけの教室で、理科の実験の後に生徒や先生が体調不良や熱中症になるなど大変な状況の中で子どもたちがすごく頑張っている。</p> <p>今後もマンションが多く建設され、子どもたちの人数も増える。今の学校教育や、学校施設を整えていかないと心配であり、子どもたちがかわいそうだと思う。費用も時間もかかることではあるが、現状を知って、子どもたちが元気に、安心して学べる場所を作っていただきたい。</p>
<p>地区の発言</p>	<p>相模大野のにぎわいづくりのために、相模大野駅の電車接近メロディを「Alexander」の曲にしようとまちづくり会議内にて合意しており、これから市に要望したいと考えている。</p> <p>これまでも、まちづくり会議の中で話し合ったことを、市と協議したり、要望書として提出したりしている。例えば、平成30年に谷口歩道橋の撤去について要望を出しているが、今年撤去され、現在、交差点の改良工事をしている。地域の方からも、すっきりして見晴らしが良くなったという意見を聞いており、要望の実現には感謝している。他にも要望を提出しているので、前向きに実現できるようにお願いしたい。</p>

<p>市長の感想等</p>	<p>懇親会ができる場所について、小田急電鉄に話をしている。例えば町田や海老名のレンブラントホテルに話をするなど、様々な仕掛けをこの数年間やってきた。一時は継続が厳しい場面もあったが、地域の皆様をはじめとして、行政、商工会議所の声を前向きにとらえて、小田急電鉄も真剣に考えてくれている。南区だけでなく中央区、緑区にもけやき会館以外大きな宴会場がなく、地域の皆様からも非常に困るとい話をいただいている。</p> <p>大型店との連携も非常に大事だと考えている。既存の施設など地域資源を生かして、他市にはない取組を行っていききたい。大野南地区は相模原にとっても宝だと思っているので、もっと前面に出さなければいけないと思う。</p> <p>イノベーションの創出促進を目的とした3者での連携協力協定を基に、スタートアップ企業の支援など様々な取組を行う。相模女子大学は「大学の地域貢献度調査」において全国女子大学で第1位であり、市でも「起業するなら、相模原」とうたっており、南区においてもそのような拠点ができ、色々と取組ができると面白いので、早めに議論をさせていただきたい。</p> <p>自治会への加入について、政令指定都市20市のうち、令和元年度の自治会加入率は新潟市と浜松市が93%、横浜市が72%、川崎市が60%であった。当時、相模原市が52%で、現在は47%となっている。以前より、自治会加入に関して市民協働推進課と話をしている。市全体の33万世帯のうち、半分がマンションなどの集合住宅であり、相模大野も分譲マンションが多いことから、集合住宅の住民の加入が大きな課題である。</p> <p>昨年度からマンションの管理組合については、民間企業も交えて自治会加入促進について対話を行っている。新たに作るような大型マンションなどの自治会への加入は非常に大事である。自治会に関する条例も八王子市などで制定されており、自治会への加入促進は重要なため、条例で定めることが良いかも含めて、本市でも庁内で検討してきた。過去にも担当職員が他市への視察を行っている。他</p>
---------------	--

市の加入率が高いのは、集合住宅のカウントの仕方などが自治体ごとに異なっており、全世帯を加入世帯と扱うケースなどにより高くなっている面もある。

南海トラフや首都直下型地震の切迫性が高まっている中で、自主防災隊も含めて自治会の役割は非常に大きいので、しっかり促進していきたい。

管理組合との情報連携というキーワードも提案いただいたことから、引き続き、自治会への加入に対する取組を真剣に考えていく。

各小学校でもイベントがあり、PTAの皆様には本当に頑張ってもらっていると思う。放課後児童クラブについては、谷口小学校と鶴園小学校では満員と聞いており大きな課題だと考えている。ほかにも受入れ対象が3年生までのところを引き上げられるように検討している。谷口小学校に第2の放課後児童クラブが設置されたが、人気があり入れないとの話を聞いている。谷口小学校はプールの跡地に校舎を作っており、今後も人口が増えてくるので、児童クラブとして既存の学校の教室を使えないかと考えている。

車の渋滞については、相模大野から北里大学へは15分で行けるが、雨の日は1時間かかる。県道52号の渋滞緩和については、国道16号沿いの若松、鶴野森近辺の区画整理事業を地域から提案されている。相武国道事務所に相談へ行って、鶴野森交差点の渋滞解消のため左折レーンを作れないかなど提案している。

県道51号についても、町田や小田急相模原の両方面への渋滞がある。小田急相模原方面はかなり整備が進んだが、季節の橋の仮設ライン付近の渋滞は注視していく。信号の歩車分離が実現できたので、人溜まりの様子などについても改めて声を聞かせていただきたい。

中学校のエアコン設置については特別教室まではできていないことは承知している。また、トイレの洋式化は62%で、課題があると考えている。特に体育館の空調は、令和元年東日本台風以降、市内小中学校の6校で整備しているが、災害時の避難場所にもなることから、市としても課題であると考えている。整備には1カ所あたり8,000万円から1億円を超える見込みであり、財政負担を軽減しながらできるか研究している。市全体で長寿命化対策として、年間100億円をかけているが、令和9年度には約200億円かかる見込みである。工事の実施が夏休み期間だけでは終わらないので、校庭に仮校舎を作れないかと業者から提案を受けている。

大野南中学校の雨漏りについては今年度中に修繕する予定で、子どもたちの教育環境は、しっかり整えていきたいと思っている。

大野南中学校は歴史があり、自身が中学生の時はスポーツが強いイメージだった。夜間学級を開設しており、今後とも開かれた学校を作っていきたい。学校の開放についても、教育委員会へ話をしているところである。

[Alexandros]の曲「ワタリドリ」の、相模大野駅の電車接近メロディへの採用については、実現できるように頑張っていきたい。

相模大野ステーションスクエアでのピアノ事業については、春のカジュアルピアノでは電子ピアノだったが、今回のステーションピアノではグランドピアノで時間も30分延長して開催する予定であり、相模大野の定番のイベントになったと感じている。相模原市の旗をしっかり出して相模原をもっと打ち出していきたい。

まちづくり会議の皆様とは、懇談会を年1回行っているが、他にも小さな集會

でも結構なので、私を含め副市長や区長に来てほしいなど要望があれば、現地まで伺うのでお声掛けいただきたい。お互いに言いたいことを言える仲であることが大事だと考えている。行政としてできることとできないこともあるが、まず、出向くという姿勢に変えていこうと市職員にも話している。例えばSDGsの取組は、この4年間で市職員をはじめ皆で努力して活発に取り組んだ結果、SDGs未来都市に選ばれ、現在は日経グローバルでも全国5位となるなど、やればできると思っている。だからこそ、皆様からご意見をいただき、対話をしていきたい。今後も皆様と様々な形で対話をさせていただきながら、ワクワクする地域づくり、他市にはないまちづくりをしていきたい。そのためには行政だけでは限界があるので、皆様のお知恵や発想など、こんなことをやってみたい、こんなまちにしたら良いのではないかということをお教えいただきたい。市としても勉強しながら皆様と一緒に、後世に残るまちづくりを進めていきたいので、ご指導とご提案、ご提言をお願いします。

(本村市長)